

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [13160] 結核菌群リファンピシン (RFP) /イソニアジド (INH) 耐性遺伝子同時検出

受託開始日

- 2023年6月1日(木)

(お知らせ)

[27242] リファンピシン (RFP) 耐性遺伝子同定は、2023年5月31日(水)をもって検査受託を中止させていただきます。

先生方にはご不便をお掛けすると存じますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。



結核菌群リファンピシン(RFP)/イソニアジド(INH)耐性遺伝子同時検出

リファンピシン (RFP) およびイソニアジド (INH) は結核の標準治療における主要な抗結核薬です。しかし、これらの薬剤に耐性を持つ結核菌が増加し問題となっています。

RFPおよびINHの薬剤感受性検査は培養法による表現型試験や、薬剤の耐性に関連する遺伝子の変異を検出する遺伝子型試験が行われています。表現型試験は標準法ですが結果判明までに長期間を要します。一方、遺伝子型試験は結果判明までの期間が短いものの、これまで薬剤別に行われていました。

結核菌のRFP耐性には*rpoB*遺伝子の変異が、INH耐性には主に*katG*遺伝子および*inhA*遺伝子の変異が関与しています。本検査は、喀痰を検体としてリアルタイムPCR法により結核菌群*rpoB*遺伝子、*katG*遺伝子および*inhA*遺伝子中の変異を検出します。培養法による感受性検査と比較して検査の所要日数が短いことに加え、標準治療における主要2薬剤の耐性関連遺伝子の変異を同時に検出します。治療開始前後にかかわらず、薬剤耐性結核菌の感染を疑う場合、薬剤選択の早期適正化が可能になるなど迅速な治療方針決定に有用です。

検査要項

項目コード	13160
検査項目名	結核菌群リファンピシン (RFP) /イソニアジド (INH) 耐性遺伝子同時検出 ^{*1}
検体量	喀痰 1.5mL ^{*2,3} [容器番号：55番]
保存方法	冷蔵
検査方法	リアルタイムPCR法
基準値	リファンピシン耐性遺伝子 検出せず イソニアジド耐性遺伝子 検出せず
報告様式	検出せず/検出/解析不能
所要日数	2～3日
検査実施料	963点 ^{*4,5}
判断料	150点(微生物学的検査判断料)
備考	<p>*1：ご依頼の際は、『総合検査依頼書』をご利用ください。</p> <p>*2：必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。</p> <p>*3：コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。</p> <p>*4：塗抹検査またはその他の検査所見で結核菌感染の診断が確定した患者を対象として、薬剤耐性結核菌感染を疑う場合に、「D023」微生物核酸同定・定量検査の「20」ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の所定点数を準用して算定できます。</p> <p>*5：「結核菌群リファンピシン耐性遺伝子及びイソニアジド耐性遺伝子同時検出」と「結核菌群リファンピシン耐性遺伝子検出」および「結核菌群イソニアジド耐性遺伝子検出」を併用した場合は、主たるもののみ算定できます。</p>

参考文献

Aono A, et al. : Tuberculosis 134: 102199, 2022.